

町長所信表明（概要）

～変化を恐れず、玉城らしさを未来へつなぐ、笑顔あふれるまちづくり～

玉城町長 中川 泰成

1. はじめに（就任の挨拶と決意）

本日、令和 8 年 6 月定例会の開会にあたり、町議会をはじめ町民の皆さまに、これからの町政運営に対する私の所信と基本方針について述べる機会をいただきましたことに、心より感謝申し上げます。

このたび、町民の皆さまからの心温まる熱いご支援、そして力強いご信託を賜り、歴史と伝統あるこの町の町長として、町政の舵取りという重責を担わせていただくこととなりました。改めてその職責の重さに身が引き締まる思いであるとともに、玉城町の新しい未来を切り拓くという強い覚悟と情熱が湧き上がっております。

本町が昨年、町制 70 周年という輝かしい節目を迎えることができましたのは、幾多の困難を乗り越え、この地の発展と住民の幸福を願い、心血を注いでこられた先人の皆様方のたゆまぬご努力と偉大な功績の賜物であります。ここに、深く敬意と感謝を申し上げます。

私たちが今から踏み出すこの一歩は、10 年先、20 年先、さらには次の世代のわが町の未来を左右する、極めて重要な一歩であります。少子高齢化、深刻化する人口減少、目まぐるしい国際環境の変化に伴う物価高騰など、私たちを取り巻く環境は平坦な道ではありません。

しかしながら、私はわが町玉城町には、いかなる荒波をも乗り越えていける底力が備わっていると確信しております。私の基本姿勢は「変化を恐れず、玉城らしさを失わず」であります。町民の皆さまの声に真摯に耳を傾け、現場主義を貫き、オープンで透明性の高い町政運営を進めてまいります。皆さまとともに、玉城町の新たな輝かしい時代を築くため、全力で挑戦を始めてまいります。

2. 玉城町の現状と時代認識

わが町は、悠久の歴史を物語る名城・田丸城跡を抱き、豊かな自然と洗練された歴史文化が調和する、他に類を見ない素晴らしい可能性を秘めております。この恵まれた環境で育まれてきた住民同士の温かい絆や地域コミュニティは、私たちにとって何物にも代えがたい「最大の財産」であります。

一方で、目を背けてはならない厳しい現実もあります。日本全体を襲う急速な人口減少と少子高齢化の波は、わが町の地域コミュニティの維持、将来の担い手不足、公共施設の老朽化、そして地場産業の継承などの課題となって表面化しつつあります。これを「時代のせい」にして放置すれば、町は衰退への道を歩むこととなります。

見方を変えれば、課題が大きいということは、それを乗り越えたときの進化もまた大きいということでもあります。玉城町が持つ本来のポテンシャルを丁寧に磨き上げ、デジタル技術や新たな民間の知恵といった「時代のニーズ」と掛け合わせることで、このピンチを最大のチャンスと捉え、更なる町の飛躍につなげてまいります。

3. 基本方針と重点施策

私は、これからの町政運営において、玉城町を次のステージへと引き上げるため「3つの柱」を掲げます。第一に、すべての町民が暮らしの中で心の豊かさを感じる『幸せが実感できるまちづくり』、第二に、行政とともに全員で未来を創る『みんなが主役のまちづくり』、そして第三に、次の世代へ誇れる基盤と強固な人財を遺す『未来に向けた土台・人づくり』であります。

これらを単なる言葉だけに終わらせることなく、スピード感を持って、一つひとつ着実に具体的なカタチに落とし込んでまいります。今定例会に上程する予算を「未来へつなぐ玉城のまちづくり予算」として位置づけ、以下の重点施策を直ちに、そして強力に推進してまいります。

柱1：生活の質と安心を最優先する「幸せが実感できるまちづくり」

町政の究極の目的は、玉城町に暮らす一人ひとりが「この町で生きて、暮らせて幸せだ」と心から実感できることにあります。子育て世代が不安なく次代を担う子

供を育める環境と、ご高齢の皆さまが住み慣れた地域で健康かつ自分らしく輝き続けられる仕組みを、一体となって構築してまいります。

■ 子育て支援の抜本的強化と環境整備

本町の未来をつくる子供たちのために、待機児童対策を最優先課題として取り組んでまいります。保育士の確保に向けた待遇改善や職場環境の整備に早急に着手いたします。また、保護者の負担を軽減するため、町内すべての保育所でカトラリー（箸やスプーン等）の一括提供をスタートするとともに、保育システム用タブレット端末を追加導入することで、連絡業務のデジタル化を推進し、保護者と保育現場双方の負担を軽減してまいります。

■ 命と暮らしを守る安全・防災対策、健康寿命の延伸

児童が安全に通学できるよう、通学路への防犯カメラ設置や自治区による設置を推進してまいります。また、健康づくりでは、認知症予防をはじめとするフレイル対策を強化し、検診率向上とその後のフォローアップ体制を充実させることで、すべての町民の皆さまの健康寿命の延伸を全力でサポートしてまいります。

■ 物価高騰対策の速やかな実行

中東情勢等による物価高騰から町民生活と地域経済を強力に守るため、デジタル地域通貨「たまネー」を活用した「1人あたり5千円分のギフト配布事業」や「ポイント還元キャンペーン」を矢継ぎ早に展開してまいります。さらに、全町民および町内事業者の経済的負担を直接的に和らげるため、水道基本料金の3か月間免除、そして小学校給食の完全無償化を速やかに実行いたします。

■ 地域一体となったコミュニティの再構築

多様化するライフスタイルに合わせ、自治区未加入世帯も含めた新たな交流の仕組みを模索します。小学校区を活動の拠点とした地域主体の取り組みをバックアップし、誰もが孤立することなく、お互いに支え合える温かい地域共生社会の土台を固めてまいります。

柱2：対話とイノベーションを巻き起こす「みんなが主役のまちづくり」

今や行政の主導によるサービス提供のみで住民サービスが充足できる時代ではありません。これからは、町民の皆さま、民間企業、そして行政が対話を重ね、とも

に知恵を出し合いながら新しい価値を生み出す「共創」の時代であります。町政情報の透明性を高め、誰一人取り残さない開かれた町政を実現してまいります。

■ 住民の活躍と生涯学び合える仕組みづくり

子どもの個性や能力を伸ばす教育支援はもちろん、部活動の地域移行や生涯スポーツの拡充に取り組みます。また、住民活動の活性化を後押しするため、新たに「住民主体のまちづくり交付金」を創設し、自主的な地域課題解決の活動を強力に支援してまいります。さらに、あらゆる世代が役割を持って輝ける「（仮称）まちづくり大学」の設置に向け準備を進めてまいります。

■ 特産品のブランド化とスマート農業による地場産業の活性化

玉城町には全国に誇るべき「玉城豚」や「お米」「いちご」「柿」をはじめとする特産品、そして伝統ある地場産業が多数存在します。これら玉城のお宝のブランド力をさらに引き上げるとともに、まちの営業本部長として積極的なトップセールスを実施してまいります。また、農業の担い手不足に対しては、新規就農者の育成を積極的に推進するとともに、スマート農業の導入を支援し、生産性の向上と経営改善を後押ししてまいります。さらに、起業や新規ビジネスの立ち上げを目指す方々へのチャレンジ支援制度を創設し、地域経済を内側から活性化させてまいります。

■ 多様な働き方の創出と共生社会の実現

誰もが自分らしく働ける環境づくりとして、多様な企業誘致と起業支援を行い、魅力的な雇用を創出してまいります。子育て世代や高齢者のライフスタイルに合わせた柔軟な「プチ就労」の場を地元産業と連携して普及させるとともに、障がい者就労継続支援施設等からの物品調達を推進し、すべての人が経済的にも精神的にも自立できる優しい社会を築いてまいります。

■ 歴史文化資源の活用と関係人口の拡大

玉城町のシンボル田丸城跡や、国指定史跡石佛庵、神宮ゆかりの摂社末社などの貴重な歴史文化遺産を、ただ守るだけでなく「活かす資産」として捉え、式年遷宮を見据えた施策を講じ、交流人口、関係人口の深化・拡大につなげてまいります。また、空き家の積極的な利活用を促進するとともに、クリエイターやアーティストの知恵を借りた「アートなまちづくり」を展開し、町外からも選ばれる、新旧が融合した賑わいを創出してまいります。

柱3：強固な基盤と人財を次世代へ遺す「未来に向けた土台・人づくり」

玉城町が50年後、100年後も持続可能で、輝き続ける町であり続けるために、必要な未来への投資を行います。インフラの長寿命化といった物理的な土台の整備はもちろん、それらを動かすのは「人」であります。「人」が育ち、その力が町のエネルギーとなる善循環を確立してまいります。

■ 命を守る、災害に強いまちづくり

南海トラフ地震等の大規模災害を見据え、地域を守る自主防災組織のさらなる組織化に向け取り組みを強化してまいります。また、木造住宅の空家除却補助の上限額を大幅に引き上げるとともに、耐震シェルター設置にかかる補助要件の緩和、および感震ブレーカーの補助要件拡大など、住民の皆さまの命をダイレクトに守る対策を加速させてまいります。また、外城田川の護岸・護床整備などの災害防止対策事業を大幅に拡充し、着実に整備を進めることで、安全で強靱な玉城町を構築してまいります。

■ 持続可能な公共施設・インフラの適正管理

学校や保育所などの公共施設の整備や、新旧体育館の有効な利活用について、町民の皆さまの安全性や利便性を考慮し、丁寧に検討を進めてまいります。これら公共インフラの将来にわたる維持・更新を見据え、財政の健全性を維持しながら、計画的な基金積立と戦略的な財源確保を模索してまいります。

■ 地域公共交通のグランドデザイン構築

移動の権利を守り、活力ある生活圏を維持するため、『地域公共交通協議会』を設置し、持続可能な交通ネットワークのあり方について検討を進めてまいります。あわせて、わが町の玄関口であるJR田丸駅周辺についても、『周辺整備検討会』を立ち上げ、利便性の向上と賑わいの創出に向けた具体的な協議を進めてまいります。

■ 行政DX化の推進と『行かない窓口』の実現

行政手続きのスピード化と業務の効率化を図るため、オンライン申請の普及による「行かない窓口」の拡充、キャッシュレス決済の導入、保健福祉会館へのキオスク端末の新設など、積極的な行政のデジタル化を実現してまいります。また、役場庁舎における手続きのスムーズ化、窓口サービスの品質向上を図るため「総合窓口の設置」に向けた検討を加速してまいります。

■ 役場組織のパフォーマンスの最大化と人材育成

これらすべての施策を確実に実行するためには、役場という組織自体が常に向上心を持ち、住民の皆さまに信頼されるプロフェッショナル集団へと成長し続けなければなりません。将来の予測が困難な「VUCA時代」に対応するため、主体的な思考力と実践力を備えた職員を育成いたします。「玉城町人材育成・確保基本方針」に基づき、指導スキルのばらつきを防ぎ、組織全体で若手を育てる「玉城町トレーナー制度」を新たに導入し、職員の働き方改革と人事交流を推進することで、組織全体のパフォーマンスを最大化させ、住民サービスの質の向上を実現してまいります。

4. 結び（笑顔あふれるまちづくりへ）

これまで申し上げました数々の施策や玉城町の未来像は、私一人の力で成し遂げられるものでは到底ありません。議会の皆さまからの大所高所からの的確なご助言、そして何よりも、この町を愛する町民の皆さま一人ひとりの「この町を良くしたい」という熱い想いと、主体的なご参画があって初めて、生きたカタチになるものであります。

私が掲げる『幸せが実感できるまちづくり』は、どこか遠くにある夢物語ではありません。日々の暮らし、現場の景色、皆さまが感じる不便や不安を一つひとつ解消していく地道な積み重ねの先にしかありません。私は常に現場に立ち、皆さまの声に耳を澄ませ、時には厳しいお叱りもいただきながら、正面から、誠実に、スピード感を持って課題と向き合っております。

一つひとつの挑戦を結実させ、町民の皆さまの笑顔が町中に広がる、そんな『笑顔あふれるまちづくり』をぜひとも皆さまとともに創り上げたいと考えております。玉城町には、素晴らしい歴史、伝統、そして何より温かく力強い「人の力」があります。この確かな歩みを止めることなく、次の世代へつなぐバトンを、今よりもさらに輝かせるため、議員各位、そしてすべての町民の皆さまと手を携え、オール玉城で勇往邁進してまいります。

皆さまのより一層のご理解と、心からの力強いご支援、ご協力を賜りますよう切にお願い申し上げまして、私の所信とさせていただきます。ともに、新しい玉城町の未来を創ってまいりましょう。

ありがとうございました。